

予算決算審査委員会報告書

令和元年10月29日

備前市議会議長 立川 茂 殿

委員長 橋本 逸夫

令和元年10月29日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第97号 平成30年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定について中、市民生活部・保健福祉部外関係の審査	—	—

予算決算審査委員会記録

招 集 日 時	令和元年10月29日（火）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午後1時28分	閉会
場 所・形 態	委員会室A B	閉会中の開催		
出 席 委 員	委員長	橋本逸夫	副委員長	田口豊作
	委員	尾川直行		土器　豊
		掛谷　繁		守井秀龍
		中西裕康		青山孝樹
		藪内　靖		西上徳一
		石原和人		森本洋子
		星野和也		
欠 席 委 員		川崎輝通		
遅 参 委 員		なし		
早 退 委 員		なし		
列 席 者 等	議長	立川　茂		
説 明 員	市民生活部長	今脇誠司	市民課長	柴垣桂介
	市民協働課長	杉田和也	環境課長	久保山仁也
	保健福祉部長 兼 福祉事務所長	山本光男	保健課長	森　　優
	介護福祉課長	今脇典子	社会福祉課長	丸尾勇司
	子育て支援課長	眞野なぎさ		
	日生総合支所長	坂本基道	吉永総合支所長	野道徹也
傍 聴 者	報道関係	なし	一般傍聴	なし
審 査 記 録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○橋本委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は13名です。定足数に達しておりますので、これより予算決算審査委員会を開会します。

本日は、議案第97号平成30年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定について、市民生活部、保健福祉部ほか関係の審査を行います。

本日は、委員より要望のありました資料について、執行部より御提出をいただきました市民協働課より路線バスの路線別利用者数一覧を1枚配付しておりますので御確認ください。

加えて、議会事務局編さんの所管別分類表16ページ、総務費雑入の訂正部分も配付しておりますのであわせて御確認ください。

それでは、該当ページを都度指定しながら審査を進めます。

まず、歳入から行います。

決算書は22ページから、所管別分類表は5ページをお開きください。

13の分担金及び負担金、民生費負担金あるいは衛生費負担金につきまして質疑のある方はおられますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次の範囲に移ります。

次は14の使用料及び手数料、22ページから27ページまでの間の使用料及び手数料につきまして、何か御質問がございますか。

○尾川委員 25ページの衛生使用料で葬儀使用料851万7,550円、詳細を教えてください。

○久保山環境課長 葬儀使用料の内訳でございます。

備前斎場分が739万6,750円、火葬が440件、それから日生斎場が112万500円、火葬が89件となっております。

○尾川委員 件数でいくと相当ふえとんですかね、総額は百何十万円ふえとんだと思うんですけど、件数は29年度に比べたらどういう状況なんですか。

○久保山環境課長 29年度が備前斎場が116件、日生が102件ですので、横ばいといえますか、28年度も420件ほどでございますので、400件ほどを推移しております。

○尾川委員 制度が変わったのはもうずっと前からでしたかな。というのは、顕著な何かこういう数字で出て、何か出てきとんかなというのをちょっと聞いたかったんですわ。

○久保山環境課長 特には変わった点はございません。ただ、今、和気北の組合のほうも協議を重ねております。そういった状況でございます。

○守井委員 25ページの福祉施設使用料で、子育て交流センターの使用料というのが29年度はあったんですけど30年度は計上されてないんですが、そこら辺はどんなんですかね。

○眞野子育て支援課長 こちらの子育て交流センターにつきましては、吉永地域公民館に併設されていたもので、子育て支援課が所管しておりましたが、吉永地域公民館に移管されまして、子育てセンター条例は平成30年3月31日で廃止させていただいております。

以上です。

○橋本委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

28ページから35ページの間の国庫支出金につきまして質疑を希望される方、ございますか。28から35です。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

○青山委員 29ページの国庫支出金、1節の社会福祉総務費負担金の身体障害者自立支援医療給付と、それからその下に特別障害者手当等の給付があるんですけど、これは何名ぐらい対象になっていますか。

○丸尾社会福祉課長 1番、身体障害者の自立支援の医療給付につきましては、18歳以上の方が対象になる更生医療で83名、育成医療が1名になります。

それから、次の特別障害者手当につきましては20人の方が対象になっております。

以上でございます。

○守井委員 同じページの下の生活保護費の負担金なのですが、生活保護費の負担金が去年から3億2,000万円というようなことになっていたんですが、減額になっているということで、保護人数自体は10人ぐらいふえているような状況なのに減少になるということはいかがかなというふうに思うんですけども、その点はどういう理由によるのでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 委員おっしゃるように、生活保護者につきましては微増でございます。しかしながら、現在、生活保護の医療費につきましては月平均の入院患者数が24人から17人に、外来につきましては月平均としまして320人から227人ということで大きく減少しております。これが減少の大きな要因でございます。

以上でございます。

○藪内委員 31ページ、3目3節の塵芥処理費補助金約1億円上がっていますが、これはどういうものでしょうか。

○久保山環境課長 こちらは、クリーンセンターの基幹的設備改良工事に伴うものでございます。平成28年度に契約をいたしまして、28、29、30年度で工事が完了しております。

以上でございます。

○尾川委員 31ページの環境衛生費補助金で、休廃止鉱山公害防止事業補助金について、今後のことについてなかなか担当者でわからんかもしれませんが、国としたらどういうふうにしてい

く、今までどおりの形を継続していこうとしんかかどうかというのをちょっとお聞きしたいんですが。

○久保山環境課長 こちらの事業につきましては、鉱山から害のある酸性水が出ているということで処理をしております。この処理については、半永久的にしていかななくてはいけないということでございますので、国、県、それから備前市と一緒に協力しながら処理のほうを今後も進めていきたいと考えております。

○尾川委員 それで、29年度に比べたらちょっと補助金が多いというのはええととるんかどうとるんかわからんですけど、増加というのは、こういうのはどういうふうな理由なのか。やっぱり処理量によって変動するんですか。ちょっとその辺を詳しく教えてください。

○久保山環境課長 そのとおりでございます。

○橋本委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

次は、34ページから43ページまでの間の県の支出金で質疑を希望される方はおられますか。

ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

次は、44ページから47ページの間で財産収入でございます。

質疑を希望される方はおられますか。

○守井委員 47ページの物品売払収入のうちの一般廃棄物の売払収入なんですが、例年と変わらんような感じなんですが、平成30年度はどのような実績になっておるんか、報告願えますか。

30年度、金属でいいますと、スチール缶が18.82トン、アルミ缶が10.94トン、金属なら金属、紙、瓶とか、そんな感じでまとめていただきたいんですが。

○久保山環境課長 平成30年度、金属類157.56トン、紙類165.71トン、瓶類200.05トン、インゴットが6.32トンで、全ての合計が529.64トンでございます。

○藪内委員 43ページの下から3行目、4節人権啓発費委託金、これは67万3,000円が38万7,000円にダウンしていますが、これはどういった理由でしょうか。

○杉田市民協働課長 こちらにつきましては、通常配分される委託金とは別に2年に1回配分される委託金額がございまして、平成29年度は27万円の配分を受けていることから、平成30年度は対前年度比で減となっております。

ちなみに、平成29年度は配分を受けた27万円を活用いたしまして人権啓発映画会を開催しております。

○尾川委員 その前の質問じゃったんですけど、一般廃棄物の売払収入でスチール缶、スチールが18.82、アルミが10.94ということなんですけど、あと主なもの、紙とか、それと単価というのはどんなんですかな。ちょっとそれを教えてもらえたらと思うんですが。

○久保山環境課長 紙類は新聞ですと50.68トン、雑誌で30.71トン、段ボールで35.93トンです。

それから、単価につきましては、スチール缶、アルミ缶については、29よりはふえております。スチール缶が34円が39円、アルミ缶が190円が195円になっております。ただ、新聞、紙類のほうは、新聞が9円が7円に下がっております。

○守井委員 その関連で、廃棄物のトン数自体はどういう傾向にあるのかなというのが1つと、それからこの廃棄物の補助を出しとる関係があるかと思う。小学校とかいろんなところの団体が収集する関係があって、それとの絡みが何かあるのかなというような感じを持ってんです。あと、再質のほうでちょっと聞きたいとは思ってんですけど、全体のごみの量ですね、9種23分別でやっていると思うんで、ある程度一定的なことになってるのかなというふうには思っているんですけども、そのあたりはいかがですか。

○久保山環境課長 量につきましては若干上下はございますけれども、大体例年同じようなトン数で推移しております。

○橋本委員長 それでは、次の範囲に移りたいと思います。

次は、48ページから51ページの間で寄附金と、それから繰入金につきまして質疑を希望される方はおられますか。48ページから51ページの間。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に行きます。

次は、52ページから55ページ、諸収入。

○守井委員 53ページの貸付金元利収入のところの4目の高齢者住宅整備資金貸付金元利収入のところなんですけど、73万1,000円で調定されているんですけど、収入未済になっておるんです。その辺の理由はどんなんでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 この件につきましては、昭和52年にその貸し付けを行ってございまして、現在10年が経過する中で、実際本人さんも亡くなっており現在も回収はできておりません。そういう状況です。

○守井委員 平成29年も同じような状況で掲載されとったと思うんですよ。何かもうずっと残るような形になるんで、何らかの処置が必要になってくるんじゃないかというように思うんですけど、その点はいかがですか。

○丸尾社会福祉課長 この件につきましては、市が勝手に処分はできません。正式に言いますと、10年も経過していますので、時効の援用という格好で、実際にその本人さんが時効の申し立てをしないといふことは処分はできないんです。あとは、議会のほうでその権利放棄といった

ようなことを条例関係でしていくとかという方向でしていかないと、なかなか解決できないというような状況でございます。

○守井委員 時効の申請というたって本人いないんだったら出せれんのじゃない。その辺はどんなんですか。

○丸尾社会福祉課長 ですから、そういった場合を含めて、議会のほうと条例関係ですね、権利放棄といったような条例をしていくといった格好で処理をしていくという方法になろうかと思えます。

○守井委員 いつまでも残らないように処置を考えるべきだと思います。

○丸尾社会福祉課長 実際、これだけではないので、全体を含めて考えていきたいと思えます。

○橋本委員長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

54ページから63ページの間の諸収入で雑入でございます。雑入の中で該当する部分について、質疑を希望される方はおられますか。54ページから63ページまで。

あわせて、歳入がもうこれで終わるんですが、全般にわたって、歳入全般にわたっての質疑、ございますか。

○掛谷委員 38、39ページ、7節の児童福祉総務費補助金の子ども・子育て支援交付金4、685万円、これについての29年度、30年度、また本年度、どういうふうな交付金の流れになっているのか、ふえているのか、傾向と平成30年度の評価について、これは別のところにも何か載っていましたが、ちょっと説明をお願いします。

○眞野子育て支援課長 こちらの子ども・子育て支援交付金と申しますのは、備前市の場合6事業が対象となっております。まず、地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業、放課後児童健全育成事業、それから乳児家庭全戸訪問事業、一時預かり事業、病児保育事業、ファミリー・サポート・センター事業、細かく言うと7事業になりますが、これが対象となっております。

これが国の基準が年々上がっているということがございますことと、それから放課後児童健全育成事業で基準額が毎年かなり上がってきているということ、それから今年度につきましては病児保育を新たに吉永病院で始めたというようなことが関係いたしまして、交付金の増額となっております。

○橋本委員長 ほかにございますか。歳入全般にわたって。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、歳出のほうに移りたいと思えます。よろしいか。

それでは、歳出の関係は78ページから87ページの間の総務費で質疑を希望される方はおられますか。総務管理費ですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、次の範囲に移ります。

92ページから99ページの間は総務費で、戸籍住民基本台帳費並びに選挙費、このあたりで質疑を希望される方。

○**藪内委員** 95ページ、19節個人番号カード等関連交付金277万9,000円、これは何枚ぐらい交付されているのでしょうか。

○**柴垣市民課長** 平成30年度は年間で468枚です。

○**藪内委員** 今後はどのようにどんどん進めていかれるのでしょうか。

○**柴垣市民課長** 今後は、新聞等、報道等にもありますように、マイナンバーカードのほうに付加価値をつける自治体ポイントであるとか、それから健康保険証を兼ねるといような方策を国のほうが検討しております。

今年度については、まず公務員について、マイナンバーカードをつくりましょうということの上からのほうからそういった指示等が来ております。

○**守井委員** その同じところで95ページの負担金補助及び交付金のところで、地方公共団体情報システム機構交付金という形になっていますが、昨年度の場合負担金という形になってたんですけど、これは名称はどういうふうになったのかな。

○**柴垣市民課長** 内容については昨年度と変わっておりません。30年度は交付金となっておりますが、前年度の負担金と内容は同一です。

コンビニエンスストア等で交付することに当たる地方公共団体情報システム機構、いわゆるJ-LISというところの運営負担金をそのコンビニ交付をしている団体等で負担するという、多少やっぱり人口規模によってその負担割りというんですか、変わってまいります、その負担金であるという内容については変わっておりません。

○**守井委員** 個人番号カード等関連交付金はどこへ支払いをしたのか、わかれば教えてもらいたいです。

○**柴垣市民課長** こちらは地方公共団体情報システム機構、いわゆるJ-LISと言われる機構に支払っております。

○**橋本委員長** ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、次の範囲に移りたいと思います。

98ページから113ページまでの間の民生費で、社会福祉費から児童福祉費に至るまで、質疑はございませんか。

○**石原委員** 103ページ、社会福祉総務費の中の19節負担金補助及び交付金の中で民生児童委員協議会補助金ですけれども、こちらの補助の規定というんですか、それについてお教えいただければと思います。

○**丸尾社会福祉課長** この補助につきましては、国、県からの補助関係になってくるんですが、

現在、備前市には131名の民生委員児童委員がおります。それに対して1人当たりが5万9,000円になります。それから、各支部の会長さんがおりますので、9人の会長さん、この方には別途に1万1,920円が支給されております。

あと、市の補助としましては、月額で525円、これを12カ月分として全員の方にその活動費として補助をしております。

○石原委員 それぞれ頑張っていただいております民生児童委員さんですけど、各地区の定員というんですか、そういう規定なんかはあるんですかね。

○丸尾社会福祉課長 現在、合併時からの人数を今は踏襲しております。各地区によっては人が足りないといった状況もございますので、県のほうとも協議をしましたが、現状維持という状況でございます。

○石原委員 足りないような地区というのはどちらなんですか。

○丸尾社会福祉課長 足りないというんですか、実際の1人が受け持つ地区として伊部地区はちょっと人が少ないといったような話はございます。

○石原委員 111ページで児童福祉費の中の13節委託料で、子ども・子育て支援事業計画策定業務委託料ですけれども、どのような業務を委託されて、どのような計画ができ上がったんか、お教えいただければと思います。

○眞野子育て支援課長 子ども・子育て支援事業計画といいますのは、今年度中、令和元年度中に策定することになっておりまして、この平成30年度に行いましたのは、その前段階としてニーズ調査を行ったものでございます。

対象は、幼稚園、保育園、こども園に在籍している子供たちの保護者、それから未就園児の保護者、それから小学生の保護者の方にお配りして回収率86.9%、こちらのニーズ調査を委託したものでございます。

○石原委員 あらゆる計画でこういった委託をされて計画ができるわけなんですけれども、たしか冊子でそのニーズ調査も結果もいただいたと思うんですけれども、ニーズ調査で各学校園を通じての調査であって、項目も多岐にわたったんですけれども、それは予算を認めて執行されとるわけなんですけど、この妥当性というんですか、ただ単にそうやって、校園を通じて調査をされて回収をされて、それをデータ化して冊子というか、まとめていく、そこからどう酌み取っていくかになるんでしょうけれども、ここで委託されとる業務というのはあくまでそこまでの作業であって、アンケート調査、それからそれをデータ化してまとめる、そこまでなんですかね。

○眞野子育て支援課長 集計、それから分析をしていただくことになっております。

今年度、同じ業者に計画の策定のほうも委託をしておりますので、その結果に基づいて計画のほうを立ててまいりたいと思っております。

○尾川委員 101ページの民生委員の推薦会委員、一番上の報酬のところ、社会福祉総務費の報酬、民生委員推薦会委員報酬ということで2万6,000円が上がったんですが、これは昨

年度に比べたらかなり低額になっただけですけど、その辺理由は何かあるんですか。

○丸尾社会福祉課長 この民生委員会につきましては、民生委員を推薦する際に集まっていたいて、その協議を行うものなんですけど、去年は1回しかその開催がなかったもので、その関係で金額は減っております。

○尾川委員 要するに、それで事足りたということなんですか。それを聞いたかったんじゃ。金額下がるとということはおよそ会合が少ないんじゃないかと。ただ、今民生委員が不足しとる云々と言おうときに、選考委員会が開かれずということ、スムーズにいったんかなということも聞いたかった。

○丸尾社会福祉課長 民生委員に欠員ができた場合に、その推薦を行うということでその人数関係についてはスムーズにその対応はできていると思います。

○青山委員 112ページ、113ページ、ひとり親家庭等福祉金の7節賃金の母子父子自立支援員賃金なんですけど、何名の支援員の方がおられて、どのような業務をされているか、教えてください。

○眞野子育て支援課長 こちらは1名でございます。母子父子家庭の生活の相談であるとか就業の相談、それから各種制度について御説明させていただいたり、いろいろ支援をさせていただく母子父子自立支援員という制度でございます。

○青山委員 1名ということなんですけど、市内にひとり親というふうな家庭がどのくらいあって、これが1名で足りているのかどうか、教えてください。

○眞野子育て支援課長 主に児童扶養手当を受給されている方が、10月末現在でひとり親家庭の世帯が265、これが母子でございます。父子が31おります。

それから、児童扶養手当を受給している世帯は大体、上限がございますけど、大体220名ぐらいとなっております。

それで、1人で大丈夫かということでございますが、子育て支援課では子供家庭総合支援拠点というのを設置しておりまして、決して1人でやるのではなく、専任の保健師であるとか助産師であるとかと一緒に、あと家庭相談員ですね、が一緒になって相談を受けておりますので、1人で行っているということはありません。

○青山委員 関連して、取り次ぎというんか、そういうふうな業務になるんでしょうか。そういう方々への取り次ぎとのか、そういう方々と同じようにそっちはそちらでまた入る、それから自立支援員の方は支援員の方で受け持つという形になるんでしょうか。

○眞野子育て支援課長 子供家庭総合支援拠点といいますのは、もちろんひとり親だけではございませんで、虐待等も取り扱っておりますので、ひとり親については母子父子、自立支援員が中心になって相談に乗ったり、いろいろ助言したり支援したりしているものでございますが、そのケースケースでみんなで考えるということでございます。

○守井委員 103ページ、社会福祉総務費の中の20節の扶助費、行旅死亡人の取扱費という

のが入っていて、予算にも入ったんですけど、警察のほうでやるというようなことになって予算から外れたのかなと思ったんですけども、これが入っていないのはどういうことになるんでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 対象者がいなかったということで、その分はここでは上げてはおりません。

○守井委員 一応予算にはあるけれどもゼロ人だったということですか。

○丸尾社会福祉課長 はい、そのとおりです。

○藪内委員 101ページ、一番上の1節報酬、障害認定審査会委員報酬72万円、これは何名分でしょうか。

○丸尾社会福祉課長 全員で6名分です。

○藪内委員 厳重にされているんでしょうが、この6名の方は、認定の際の透明性、公平性は十分に担保されているんでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 この委員につきましては、医師であるとか社会福祉施設の関係者、保健師といった要資格者をお願いをしております。その方は、全員、県の障害者認定の診査に係る研修等を受けてもらって審査に当たっていただいております。

○藪内委員 関連でなんですが、介護認定のほうの委員についてはどうでしょうか。

○今脇介護福祉課長 介護の認定審査会の設置につきましては、介護保険法の第14条に規定されております。それから、審査委員につきましても、介護保険法の第15条に要介護者等の保健医療または福祉に関する学識経験を有する者のうちから市町村長が任命すると規定されております。

備前市の審査委員につきましては、21名おられまして、その中で医師が9名、歯科医師1名、保健師5名、薬剤師1名、看護師1名、福祉関係者4名となっております。

研修につきましては、初めて審査委員をお願いする方についてはもちろん新任研修を受けていただいております。それから、現任研修につきましても、毎年委員の皆様に御案内をしております。研修の内容につきましては、要介護認定関係制度、介護認定審査委員の基本姿勢、要介護認定等基準の考え方、審査会の手順、事例検討などとなっております。

○守井委員 109ページ、負担金補助及び交付金の移動販売サービス事業補助金で131万4,000円なんですけど、29年度に比べて実績的に多少ふえとるといようなことなんですけど、この移動販売サービスのこの30年度の実態はどういう実態だったか、報告願えますか。

○丸尾社会福祉課長 移動販売につきましては、年々要望がありまして、走行距離がかなりふえております。参考にですけど、現在県内では25台の「とくし丸」が今走っております。その備前市以外の「とくし丸」の月平均の走行距離が1,305キロに比べまして、備前市のほうが2,262キロ、約1,000キロ近く多目に走っているという中で、燃料費が非常にふえているということでございます。

○守井委員 あちらこちらでかなり「とくし丸」を見るようなケースになってきておるんです。何か週に2回とかというような話を聞いているんですけど、今1台で運用しているんですかね。

○丸尾社会福祉課長 新たに天満屋のほうで1台「とくし丸」を走らせたということは情報としてこちらのほうへは入ってきております。

場所につきましては、その細かい場所はわかりませんが、寒河地区から閑谷、そして吉永方面というようには聞いております。

○守井委員 市が補助しているのは1台だけということで理解しとってよろしいんですか。

○丸尾社会福祉課長 はい、そのとおりでございます。

○守井委員 何か都合によっては2台にふやさないといけないんじゃないかなというように感じるんですけど、その点はいかがなんでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 それは現時点では考えてはおりません。

○守井委員 利用が多くなって、一人だけでは回らないというようなことも考えていかななくてはいけないんじゃないかなという問題提起なんですけど、それはいかがなんでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 確かに、いろんな考え方があろうかと思いますが、あくまでも現段階ではそこまでは考えてはおりません。

○森本委員 同じ節のシルバー人材センターの運営事業補助金なんですけど、昨年の会員が170人とお聞きしたと思うんですけど、今年度の会員数を教えてください。

○丸尾社会福祉課長 30年度につきましては161名でございます。

○森本委員 需要と供給についてなんですけど、30年度に依頼に応じている数とか、わかれば教えていただきたいんですけど。

○丸尾社会福祉課長 シルバー人材センターの延べの受注件数が2,760件でございます。

○橋本委員長 それは増加傾向にあるんですか。

○丸尾社会福祉課長 ほぼ横ばいという状況でございます。

○森本委員 人材確保に関しては今後どういうふうな見通しを立てられていますか。

○丸尾社会福祉課長 事務局長を含め、なるべく入ってもらいたいというふうな募集はしておりますし、勧誘もしておりますが、なかなかふえてこないというのが現状でございます。市としても、少しでも人がふえればいいなというふうなことは思っております。

○藪内委員 101ページ、7節賃金、臨時雇い賃金300万円近く減っているんですけど、これはどういった理由でしょうか。

○丸尾社会福祉課長 平成29年度につきましては、臨時福祉給付金の関係がありまして、臨時職員がおったんですけど、30年度はそれがなくなり、その分の減額となっております。

○藪内委員 29年度の決算からでなく、30年度の予算から300万円近く減っているんですよ。

○丸尾社会福祉課長 ここの不用額につきましては、手話通訳者を毎年募集はしておるんです

が、今まで募集がなかったということで、毎年落としております。ことしの8月にやっと手話通訳者が採用というか、来られましたんで、その関係でございます。

○尾川委員 105ページの負担金、人権啓発費の負担金補助及び交付金で犯罪被害者等支援団体補助金、6万9,996円というふうになっとんですが、活動内容、実績についてお伺いしたいんですが。

○杉田市民協働課長 こちらにつきましては、公益財団法人被害者サポートセンターおかやま、略称がVSCOといいますが、そちらへの補助金となります。こちらの団体は平成15年11月の活動開始以来、殺人、傷害、性犯罪等の犯罪被害者やその家族への支援を行っている団体で、相談支援を無料にて行っております。

主な活動は、被害者との電話や面接による相談、直接支援、また支援員の養成、機関誌の発行やフォーラムの開催等の広報啓発活動を行っております。

相談件数は、2018年実績で電話相談が延べ400件、面接が延べ25件、弁護士や関係機関への紹介、付き添い、申請手続等のサポートを行っているとお聞きしております。

○尾川委員 そうすると、備前市としては特に直接手は出してないということ。

○杉田市民協働課長 備前市としては直接報告等は受けておりませんので、把握はできておりません。

○尾川委員 よしとしますけど、ちょっと金額が。そういう補助金はいろんな計算方法があるんだろうと思うんですけど、何万円とか何千円とか、その辺はどんなんですか、何か思わせぶりの金額になっとんでね。だから、備前市でやりようかなと思うてちょっと聞いたんですけど。

○杉田市民協働課長 こちらにつきましては、人口掛ける2円ということで前年度3月末現在の人口によりまして算出しております。

○尾川委員 109ページの老人福祉施設費で、使用料及び賃借料で龍泉荘の用地借り上げ料ということで2万4,081円が上がってる。これはある程度前後しよんですけど、その前後する理由と、それからこの年間2万4,000円ぐらいだったら、備前市が購入するというわけにはいかんのか、ちょっとその辺を教えてもらえたらと思うんですけど。

○野道吉永総合支所長 借地借り上げ料なんで用地の借り上げ料でございますが、金額の変動は固定資産税部分をちょっとお支払いしているというような形になっておりまして、毎年固定資産税の課税標準額をもとに算出することによって出ますので、毎年若干の差異が出るということでございます。

それから、購入というお話でございますが、現在、龍泉荘の施設のほうが老朽化しております。それから、現実、実際に使われている方が今年度におきましてはほとんどゼロの状態で、昨年度も数件、数人しか使われていないというのが現状でございます、こちらのほうは施設のほうの廃止等も視野に入れて考えているのが今現状ということで、購入はちょっとないかなと考えております。

○中西委員 101ページの社会福祉総務費の報酬のところでの障害認定審査会委員の報酬ですけども、6人おられるということなんです、ここは審査会の質を担保するという意味ではマニュアルあるいは認定の手引みたいなのはつくっておられるのでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 内容等につきまして、審査項目はあります。それに基づいて審査を行っているという状況でございます。

○中西委員 つまり、審査項目はあっても、この項目の中のこれが1級になるんだ、2級になるんだと、そういうマニュアルがないと審査ができないということになると思うんですが、そういうマニュアルはないのでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 これにつきましては国が定めた100以上の項目について調査を訪問の際などに聞き取りを行いまして、全介助、部分介助などの結果を厚生労働省の専用の判定ソフトに入れて1次判定を行うと。その1次判定をもとに6人の委員さんが合議をして2次判定として決定するというシステムでございます。

○中西委員 101ページ、社会福祉総務費、13の委託料、ここで各種相談業務委託料というのがあります。各種というのは、どういったものがあるのでしょうか。そして、その委託先というのはどちらになるのでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 委託につきましては、身体障害の方であるとか、精神障害の方、知的障害の方を対象にその関係団体、関係者が相談を受けております。その個人に対して委託料ですね、そういった関係者に対して委託をお願いしているという状況でございます。

○中西委員 その委託先というのはどこの団体になるのでしょうか。そして、各種というのは身体、精神と幾つかあるんだと思うんですけども、その各種というのはどの団体になるのか、それからそれによって委託先が決まるんだと思うんですが、それはどういうものになるのでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 各団体の個人の方に対して相談業務をお願いしているという状況でございます。

○中西委員 その団体というのはどこの団体になるのでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 身体障害者の協会であるとか社会福祉の団体であるとか、そういったほうに加入しておられる方というんですか、に対して委託をお願いしている。

○中西委員 これは長くなりますから、その団体名と幾らずつ委託を出しているのか、一度教えていただきたいということをお願いしておきたい。

○丸尾社会福祉課長 身体障害者の協会の方の会員の方に対して、6名の方が、知的相談員についてはそういった社会福祉法人の方の中から選定をお願いしているという中で、現在12人の方にその相談をお願いしております。費用につきましては月に2,000円をお支払いしております。

○中西委員 私はもう答弁結構ですので、その一覧表を出していただければ結構です。

続きまして、103ページの負担金補助及び交付金のところで、特定疾患医療附帯療養交通費

補助金の人数と、それから交通費の補助金ですけれども、市外というのは考えられるわけですが、県外なんかもあるのでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 今言われる県内の方も当然おられます。件数としましては204件の方が利用をされております。

○中西委員 県外は何人ぐらいおられるんでしょう。

○丸尾社会福祉課長 実人数で、県外の方が13名、病院につきましては赤穂が2病院、神戸が1病院でございます。

○中西委員 続きまして、委員長、111ページの老人福祉施設費の19の負担金補助及び交付金のところで、地域医療介護総合確保基金事業費補助金、これの成果についてお知らせ願いたいと思います。

○今脇介護福祉課長 鶴海にあります備前多聞荘の特別養護老人ホームにおける多床室を仕切りまして、プライバシー保護のための改修の工事となっております。

○中西委員 どのように改修をされたんでしょう。ちょっと僕もよく知らなかったもので。

○今脇介護福祉課長 多床室ですから、一部屋に6人ほどの部屋を仕切りを入れましてプライバシー保護というところで個室みたいな感じでという改修です。

○中西委員 つまり、6人部屋を仕切りを入れたと。しかし、明快な1人部屋ではないということなんですか。

○今脇介護福祉課長 大きな6人部屋の入り口に1つ入り口があるんですけども、その方の個室といいますか、そこにも1つ入り口がございます。それから天井部分はいいております。そういった感じの部屋になっています。

○中西委員 気になるのは、そうすることによって、例えば利用者の負担金がふえるとかそういうものはあるのでしょうか。

○今脇介護福祉課長 上がらないということでお聞きしました。

○尾川委員 113ページの委託料、ひとり親家庭等福祉費の委託料、委託料で電算システム等保守委託料で不用額が非常に多いような気がすんです。去年も、調べたら去年もやっぱりこのくらいの不用額になっとなんで、何か理由があって、値切って安くしてもらったというのは努力の跡があるんですけど、どんなんですかね。

○眞野子育て支援課長 この委託料の中には電算システム保守委託料と、もう一つ母子生活支援施設措置委託料というものを含めております。この母子生活支援施設措置委託料というのが114万4,000円なんですけど、これは例えば母子家庭でちょっと援助が必要な方が避難して暮らすような施設に入居する費用なんですけど、30年度には利用がなかったということで、項目も上がってこないし金額も残っているということでございます。

○尾川委員 29年度もそういう傾向じゃなかった。

○眞野子育て支援課長 はい、そうです。これは緊急的に起きるものでございますので、予算だ

けは確保させていただいております。

○尾川委員 要するに、わかりやすうできんのかと。緊急的など言われたら返事ができんのやけど、2年も続けてこんなことをするんじやったら余り、またこういう時間とってももったいねえし、何か方法があるんならね。項目分けるとか、備考欄に詳細を書くとかというようなことをしたらスムーズにいくんじやねえかなと思うんですが、提案かたがたで。

○眞野子育て支援課長 財政課と検討してみます。

○橋本委員長 それでは、審査途中ですが休憩をいたします。

午前10時35分 休憩

午前10時49分 再開

○橋本委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

次の範囲は112ページから121ページの間で、民生費、児童福祉費から121ページは災害救助費に至るまでの間で質疑を希望される方はおられますか。

○藪内委員 117ページ、13節委託料、放課後児童クラブ事業委託料7,312万6,000円、予算の約8,000万円から700万円減されていますが、どういった理由からでしょうか。

○眞野子育て支援課長 これは、30年度の2月補正で減額させていただいたもので、当初で障害児受け入れ加算をつけていたクラブが実際は障害児を受け入れなかったということと、それから250日以上開設をする予定で当初予算を組んでいたものが250日に及ばなかったというクラブが2クラブありました。その関係で減額させていただいております。

○守井委員 関連で、29年度からの増加の理由をおっしゃってください。

○眞野子育て支援課長 平成29年度は5,596万3,000円だったものが7,312万6,000円に上がった理由でございますが、この事業は、歳入のときでも申し上げましたが、子ども・子育て支援交付金の対象事業となっております。国の示す交付要綱により、年間開所日とか児童数、障害児の受け入れの有無や受け入れ人数等で基本額や加算額が設定されることとなっております。

その額が放課後児童クラブの事業に対して国が手厚くなったというような理由もございまして、年々増加しておりますのが一つの要因でございます。

一例では、年間の開所日数が250日未満で児童数が19人以下のクラブの場合、平成29年度は金額が95万8,000円であったのが、平成30年度は163万7,000円に70万円近く上がっています。これに該当するクラブが市内6クラブございます。また、障害児受け入れ強化推進事業というのがございまして、これの加算額がつくクラブが7クラブございました。そのようなことで、額が大幅に上がったものと考えております。

○守井委員 内容が充実してきたというような形になるんだろうと思うんですけども、その増額になったお金というのはどういうふうに使われているのか、単価をアップするとか、いろんなこ

とになるだろうと思うんですけど、それはどのように利用されたんですか。

○眞野子育て支援課長 運営は運営委員会に委託しておりますので、それぞれだと思いますが、主に人件費が一番大きいかと思えます。例えば障害のあるお子さんを受け入れるには人の配置が必要ですので増員したり、そういうことに使っていると思えます。

○掛谷委員 資料によると、開設の目標が、日数がそれぞれあります。これが250日を超えるとプラスというんか、定められた日数を下回っているところもあります。そういうところはどうか。

それと定員ですね、ちょうど保護者の負担金の隣に定員が25名ありまして、ずっと下へ行ったトータル290で、登録者数は多いんですけども、このあたりの超過というのは大丈夫なのか。定員オーバーするところは今のところないんかどうか、恐らくふえてきているんじゃないかなと思っております。どうなんでしょうか。

これも岡山市なんかは一律に保護者の負担金等もだんだん増えてきているということで、今後の問題点とか課題とか、国からの支援が手厚くなっているのは評価いたしますけど、そのあたりを含めてもう少し詳しくお願いします。

○眞野子育て支援課長 開設日数は250日以上というほうが少ないんです。土曜日を受け入れたりしたら250日を超えるということで、ほとんどのクラブは250を超えておりません。

それから、登録児童数が定員より大幅にふえているということですが、これについては長期休暇だけ利用する児童も含まれますので、これが多いのは仕方がないと思えます。

その登録児童数の隣の隣の月平均児童数というのが本当に月に大体何人かというのが、これが実績でございまして、定員を少し上回っているクラブもありますが、許容の範囲であると考えております。

それから、一律に岡山市のようということとは委員会でも議会でも御指摘をいただいているところではございますが、それについては前向きに頑張ってもらいますので、よろしく願いいたします。

○尾川委員 今の関連で、要するに待機児童というんか、そういうのは余りおらんという答弁のように聞こえたんですけど、今後、放課後児童クラブの方向性というのは眞野課長はどう考えられとんですかな。

○眞野子育て支援課長 備前市は、基本的に今こども園、保育園、幼稚園など無償化しておりますので、その影響で女性の就業率が高くなっておるのは本当に現状で、それが保育園とかでしたら6時、7時まで預かっていただいていたのが、放課後児童クラブだと6時に帰らないといけないうようなことになっておりまして、小1の壁と言われるものがあるというような世間の状況でございます。

備前市としては、保護者の方の望むように受け入れを行っていただきたいとクラブのほうにもお願いはするところではございますが、運営委員会が運営している以上、余りこちらからき

つく口出しというのがなかなかできないのが正直なところでございますが、その辺は理解をいただきまして、運営協議会というのが、連絡協議会というのがあると前も申し上げましたが、各クラブの代表が集まって備前市内の放課後児童クラブの連絡協議会というのがございますので、そのあたりと協議しながらなるべく保護者のニーズに沿った形で進めてまいりたいとは考えております。

○尾川委員 私いつも言よる支援員の問題で、基準をきちっとやっばり守ってもらいたいというようなこと。

それから、土曜日が本当に開設が適当なんかどうかということも含めていろんな課題を、支援のする人の立場もあるし、こども園のほうにしても保育士の問題もあるし、いろんな切り口でよう検討してもらえたらなど。例えば、放課後児童クラブの夏休みの給食の問題なんかも、ほとんど毎日夏休み中も行きようるわけじゃから、どうするかということも市としても考えていかんやあいけんのじゃねえかなという課題ではあると思うんですけど、眞野課長にお任せしますので、考えてくださいませ。

○眞野子育て支援課長 一つのクラブでは、夏休み中、お弁当をとったというようなクラブもあると聞いておりますし、そのような情報が各クラブに伝わって、うちもこうしたほうがいいのかというような情報交換ができて、市内統一的になったらいいなどは考えております。今後も努力してまいります。

○守井委員 114ページの児童福祉施設費、負担金補助及び交付金のところの病児保育事業負担金なんですけど、29年度に比べて大きく膨らんだということは、吉永での病児保育かなと思うんですけど、この事業の実態としての事業主は誰になるのかなと。これは市がやられるんじゃないかと思ってんですけど、いかがなんでしょうか。

○眞野子育て支援課長 備前市が病児病後児保育を実施しております。

○守井委員 ほんなら負担金としての支払いはどこへ支払うような形になるんでしょうか。

○眞野子育て支援課長 こちらは、吉永病院が病児保育を始めるに当たり、施設を改修いたしましたので、その分の負担金をお支払いしたような格好と、それから岡山県の広域利用という制度がございますので、よその病児保育の施設に備前市の子供がかかったら、その分の負担金を払うということで、その分の予算もとらせていただいております。

○守井委員 それで、一応保育なら保育園という認定の扱いなんだと思うんですけど、例えば園長とかそういうあたりの管理的な話はどういう形になるのかなと思うんですけど、その点はいかがなんでしょうか。

○眞野子育て支援課長 病児保育につきましては、事業としては委託しているような形をとりますので、吉永病院に委託しているような形、吉永病院が運営上の責任はとっていただければと思います。

○守井委員 園長も、その病院長が管理者になるという形になるんでしょうか。

○眞野子育て支援課長 病児病後児保育につきましてはそうなると思います。お医者さん、小児科の先生の診断を受けて引き受けるということになっております。

○中西委員 115ページの賃金のところで、運転員賃金というのがありますが、これは何の賃金なんでしょうか。

○杉田市民協働課長 こちらはスクール関係の運賃になりまして、認定こども園の運転員賃金となります。

○中西委員 認定こども園の送迎にかかわる運転員の賃金ですか。

○杉田市民協働課長 はい、お見込みのとおりでございます。

○中西委員 認定こども園全てを対象にしていると、何人ぐらい運転員さんはおられるんでしょうか。

○杉田市民協働課長 担当者は1名となりますが、交代で運転をしていますので、兼務の方もいらっしゃいます。

○中西委員 何人おられるんでしょうか。

○杉田市民協働課長 担当者といましては2名というところでございます。

○中西委員 つまり認定こども園全てに在るわけではなくて、特定の認定こども園に在ると。どこのこども園におられるんでしょうか。

○杉田市民協働課長 吉永認定こども園となります。

○中西委員 この運転員賃金は個人で契約して個人にお金が払われているわけですか。それとも、法人に払われるとか、どういう形をとっておられるでしょう。

○杉田市民協働課長 スクールバス運転手賃金と同じで時間給により支払われております。教育委員会のほうで採用されていらっしゃいます。

○中西委員 121ページ、生活保護費、資金貸付金6万円、なかなか私も余りこういうのを現場に立ち会うことがありませんでしたので、どういうものでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 この貸付金につきましては、要保護者の生活安定のためということで、申請があって、その決定するまでの間の一時金としてその生活保護費としても貸し付けを行うものでございます。

○中西委員 そうしますと、貸付金ですから当然返していただくと。しかし、その返す段階ではその方は生活保護を受けているということになるわけですけど、何ら問題はないんでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 この貸付金につきましては、一番最初の保護費の支給のときに返していただく格好にはなります。

○中西委員 前渡金みたいなものであることがよくわかりました。

続きまして、その下の災害救助費の扶助費、災害見舞金ですけども、これは13万円支給がされています。何人ぐらい、そして幾らぐらいずつお金が支給されたんでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 家火事が4件ありまして、その関係で災害見舞金のほうを支給をしております。

ます。

○中西委員 家火事が4件となると、この13万円がきちんときれいに割れないわけですが、火事の大小によって違うのかなと思うんですけど、それはいかがなんでしょうか。

○丸尾社会福祉課長 当時の内規によりまして、全焼とか半焼、そして家族構成の関係で微妙にその金額が変わってきますので、その関係で微妙にその数字が変わってはおります。

○藪内委員 117ページ、放課後児童クラブ事業委託料の件なんですけど、それに関連して2016年から岡山県学童保育連絡協議会が岡山県作業療法士会に協力を依頼して、作業療法士を派遣し、職員の支援に当たっているとありますが、備前市はその制度を採用していますか。

○眞野子育て支援課長 備前市として受けては無いんですが、備前県民局の協働による地域づくり事業で作業療法士訪問コンサル事業というのがありまして、それに平成30年度に香登と伊部が手を挙げて来ていただいたというような実績がございましたので、報告いたします。

○橋本委員長 それでは、次は120ページから135ページまでの歳出のうちの衛生費でございます。保健衛生費以降、清掃費までを含めまして、この間で質疑を希望される方はおられますか。

○守井委員 123ページの保健衛生総務費の中の報償費なんですけど、記念品等が154万6,326円ということで、これはBポイントの事業だろうと思うんですけども、平成29年に比べて減額になっておりますし、予算等も大分減額になっておるといようなことで、結果はどういう状況だったのか、報告いただきたいと思えます。

○森保健課長 30年度のBポイント事業なんですけれども、これにつきましては前年度とまた少しやり方を変えさせていただきまして、健康づくりに特化したポイント制度に変更させていただいております。

健康診断、それから各種検診、がん検診等を検診ポイントとして必須項目として設定いたしました。それと、健康診断、各種検診を必須としたというところで、対象者を20歳以上の備前市民に変更させていただいております。

それから、制度を見直したことで、規定数のポイントをためて応募すると抽せんで賞品が当たる方式に改めるとともに、高額な商品を追加して実施いたしました。

応募者数は、904人でありました。その中で、商品のほうをA賞、B賞、C賞、D賞というように4つの賞品に分けて抽せんを行い、それぞれの当選者の方に賞品をお渡ししたというようなやり方でやっております。

この決算書に載っております記念品154万6,326円につきましては、これらの商品の代金となっております。

○守井委員 予算に比べても事業消化が少なかったというふうに認識しておるんですけども、その辺を踏まえて、31年度の状況はどんな状況かわかりますか。

○森保健課長 31年度については、この30年度のときの参加してくださった方とか市民の方

の意見を聞いた中で、30年度は参加賞がなかったのですが、31年度につきましては参加していただいた方には必ず何らかの参加賞のほうを考えております。

31年については、事前に自分で健康のためにウォーキングであるとか食事に関しては野菜から食べる食事に心がけるとかというようなことで、自分で目標を設定していただきまして、それを実行するというようなことで参加のほうをしていただいております。当然、がん検診などの検診についても必須ポイントということで募集をしております。これにつきましては、31年度は741人の申し込みがあったということでございます。

○掛谷委員 123ページ、13節の委託料、検診委託料2,868万6,000円ですが、別冊の資料で23ページにいろいろ健康診査、肝炎、骨粗鬆症から結核検診までございます。各種健康診断実施状況ということでございます。

ここでいつも問題になるのはこの受診率ですね。この資料の中で対象者の人数、受診した人数で受診率がございます。見ても、一桁というところもありますし、よくても15%程度のところで、いつもこれがどうなのかということ、指摘があります。

既に病院にかかっている、こういうものを受けなくても病院にかかっているのもういいんだとか、アンケート調査なんかされて、どうして受けないんですかとか、そういうところも分析をされておりますか。そのところをちょっと教えていただきたいんですけども。

○森保健課長 このがん検診の検診等の受診についてアンケートのほうは実施しておりません。

この受診率の出し方なんですけれども、平成28年度からは対象者の人数がこの年齢等の基準、対象年齢の基準の全対象者の人口に対する受診率になっております。27年度まではその中から農林水産業の従事者であるとか40歳以上の就業者数であるとかというものを引いたもので受診率を出しておりましたので、28年度からは分母が大きくなって受診率のほうはずっと下がってきているというような状況でございます。

委員指摘のように、受診率が低いので何とか上げるように考えていきたいとは思っております。

○掛谷委員 対象者が今言った、関係した健康保険証を持っている市民全部を対象にして分母が大きくなったと。当然それは下がります。じゃあ、どこの辺までそれで持っていこうかというのが我々なかなか見えにくいんですけども、実際のところ何%に持っていきたいというふうに願ってやっているんですか。

○森保健課長 この対象年齢の就業者数などの数字を把握した上で、理想としては皆さんに検診を受けていただいて、がん等について早期発見をして、健康な生活を送っていただきたいと考えております。

○掛谷委員 特にがんなんですけども、がん以外でも健康診査ということで、40歳以上の生活保護受給者とか、そういうところもありますし、35歳から39歳までの個別の方々もおられるし、一つ一つ目標を立ててやっていただきたいなというように意見を申し上げます。

と同時に、これは100%実施されたら、今これは3,247万円ほどで済んでいるんですけど、実際のところこれは100%近かったらどれぐらいのお金がかかるんですか。

○森保健課長 実際に100%になったときの金額というのはわからないんですけども、この中で40歳以上の就業者であるとか農林水産の従事者であるとかというような方につきましては、それぞれの社会保険のほうで人間ドック等を受けられておると思います。そういうような関係から、これが100%になるということはないんですけども、かなりの増額になるのではないかと考えております。

○掛谷委員 最後もう一回、やっぱりしっかりアンケート調査をして、病院にかかっている人にまたがんとかいろんな形で検診を受けというても、もう既に受けているから受けなくていいというようなことも、二重になるわけですね。そういうふうな状況というのを把握されたほうがいいんじゃないかと私は思うんですけども、特定健診にはこれはありませんけど、特定健診なんかもそういったものを含めてよくアンケート調査されたらどうかと思いますが、どうでしょうか。

○森保健課長 特定健診につきましては、受診勧奨等については電話でしておりまして、そのときに受診を受けなかった理由などについては幾らかは把握しておりますけれども、このがん検診等についても把握しながら、もっと受診率が上がるように努めていきたいと思っております。

○中西委員 今のところの各種健康診断の実施状況について、この資料をずっと見させていただくと、集団検診と個別検診がされています。集団検診というのはほぼこれぐらいが限度じゃないかなというような感じが今までの数字からしても思うんですが、いずれはやはりこの個別健診に移行していかざるを得ないんじゃないかなというふうに思うんです。

例えば子宮がん、乳がんなんかにしても、恐らく個別検診に移行していく、ここなんか割合が高いと思うんですね。やっぱり医師会を中心とした契約の中で個別の検診をふやしていく、ここに少しシフトをしていく必要があるんじゃないかと思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○森保健課長 委員さんおっしゃるように、だんだん個別のほうへシフトしていきたいという考えはありますけれども、例えば乳がん検診なんかでありますと、それを診る医師のほうで市内でもたしか少なかったんじゃないかと、ちょっと今思っております。また、女性の検診ということで、例えば個別で予約して行く日になかなかまいこと体調なんか合わないというような日があったりとかというようなことがあるともいろいろ聞いております。

集団検診のほうに参加しやすいというような話も聞いたりしておりますが、だんだん受診率を上げていくようなことの意味からしましても、個別のほうで検査のほうができる医療機関に数のほうをふやしていくような形でお願いできたらと思っております。

○中西委員 この問題については、厚生文教委員会のほうで、特に公立病院の統廃合の話も出ていますけれども、公立病院がどのくらいこの健康診断を、個別検診を受けていくことができるかどうか、これは委員会のほうで少しまた検討させていただきたいというふうに思います。

○石原委員 123ページ、保健衛生費の中の13節委託料で健康びぜん21計画策定委託料2

81万8,800円ですが、こちらの策定はどちらへ委託をされとんでしょうか。

○森保健課長 株式会社グリーンエコという会社に委託しております。

○石原委員 どちらの会社になるのでしょうか。

○森保健課長 大阪府中央区の会社でございます。

○石原委員 こちらも、当初の予算では400万円計上されておって、30%ほど減となつると見込んでんですが、減ですんで好ましいことかと思うんですけども減となった理由、そこらの状況についてお教えいただければ。

○森保健課長 当初予算のときには、この第2次健康びぜん21計画とあわせて自殺対策計画を別冊で策定する予定にして当初予算のほうを計上させていただいておりました。

自殺対策計画書の国の策定指針がその後公表されて、別冊ではなく、第2次健康びぜん21の計画の中にあわせて自殺対策計画も含めて計画書をつくっても構わないというような国の指針が出たところから、自殺対策計画のほうもあわせて第2次健康びぜん21の計画に盛り込むというようなやり方をとりましたので、その分について減額しております。

○石原委員 こういう計画は、でき上がりますと冊子は何冊ぐらい印刷されて、どういうところへ配付をされるのでしょうか。

○森保健課長 冊子につきましては、400冊を作成いたしました。

そのうち、主な配付先といたしましては、議会の皆様、それから市の庁議のメンバー、それから小学校、中学校、片上高校の校長会、校長先生、それから保育園、幼稚園、認定こども園の園長、それから小学校、中学校の養護部会などが主な配付先です。

○石原委員 それから、策定に当たっては推進協議会も開かれて、原案をお示しして進んでこられたと思うんですけども、御記憶にあればいいんですが、そういう場所って活発に委員の方から御意見をいただけるもんなんではないでしょうか、どんなんでしょうか。

○森保健課長 例えば備前市の学校給食部会の部会長の先生とか、あと学校の養護部会の先生なども委員になって御出席いただきまして、子供の食育の状況であるとか、日ごろの学校の生活、例えばタブレットであるとか、家に帰ってもタブレットで遊んだり携帯をいじったりする時間が長いであるとか、そういうようなこと、それから学校でも多分調査されとんだと思うんですけども、朝学校へ来る前に食事をとらないであるとかとっているだとか、寝る時間が早いだとか遅いだとかというような現状について、いろんな意見を聞いて、意見のほうが出たりはしております。

○橋本委員長 それでは、次の範囲に移りたいと思います。

次は、168ページから199ページまでの間の教育費で、そのうちの事務局費あるいは学校給食費に関しまして質疑を希望される方はおられませんか。

○尾川委員 戻りますが、123ページの委託料、行事企画運営費委託料の8万円があるんですけど、これは今回だけですか、それとも従来からやっつることなんですか。それと、委託先も教

えてください。

○森保健課長 これにつきましては、岡山済生会総合病院の脳神経外科の中島先生を中心といたしましたNPO法人ニューロスパイナルセミナーというところから、急遽、背骨からの手足のしびれ、痛み、腰痛セミナー、脳神経外科が治す背骨の病気というようなセミナーの開催依頼が急遽ありまして、それについてお支払いした委託料でございます。

これにつきましては、中島先生のほうから8月26日にしたいという日にち指定で7月の中ごろに依頼がありまして、実施したものです。これについては、平成26年と平成27年に2度実施しております。27年以来の3年ぶりの実施となっております。

○尾川委員 もう一点、今話を聞きようすると委託料じゃなしに講師料じゃねえかなど。委託料より講師料のほうが、要するに済生会という団体だから委託料になるんかもわからん。その辺はどんなんですかね。

○森保健課長 このNPO法人のほうへ支払うというところで委託料というところで支出をさせていただきます。

○掛谷委員 尾川委員と同じですけど、どれぐらいの方が参加されたんかなど、それと参加者の声はどうだったんでしょうか。

○森保健課長 参加者の人数につきましては、30年度は42人で行いました。このセミナーの評判につきましては、整形外科医ではなくて、脳神経外科が背骨の痛みや腰痛を治すという治療の説明で、セミナー修了後、皆さん参加者の意見といたしましては、このセミナーは8人の医師とか理学療法士とか管理栄養士、看護師が入れかわり立ちかわりいろんなことを教えていただくんですけども、最後に直接医師とお話、相談ができる時間を設けておりまして、その時間が市民にとってはとても有意義なセミナーであったというようなことで感想のほうがありました。

ちなみに、30年度は42人だったんですけども、平成28年度は82人、27年度につきましては102人と大勢の方の参加があったということで、30年度についても急遽なんですけど、市民の健康増進につながるのではないかとということで急遽実施いたしました。

○橋本委員長 それでは、168ページから199ページの間で。

○中西委員 171ページの教育総務費の事務局費の賃金、スクールバス運転員賃金があります。その後にも199ページで賃金が出てきます。これは、給食費の賃金ですけども、ここで給食運搬員運転賃金というのが出てきます。この何十分か前に認定こども園の送迎の賃金として運転員の賃金が出ていました。なぜ市民協働課が教育委員会が採用した職員の事業を受けなければいけないのか、その理由についてお聞かせ願いたいと思います。

○杉田市民協働課長 運転員の賃金等につきましては、管理事務所のほうで一括管理いたしております。予算の執行あるいは職員の勤怠管理、勤務シフトを含めまして管理事務所のほうで一括管理を行っておりますので、その関係でこちらの市民協働課のほうでお答えしております。

○中西委員 しかし、採用は教育委員会の採用ですよ。

○杉田市民協働課長 はい、お見込みのとおりです。

○中西委員 これは昨年度の決算委員会の中でも、やはり実態に合わせたような形での運用が図られるべきではないかという意見を申し上げました。その折に、部長のほうはそのように教育委員会のほうとも相談をするかのごとくのような御答弁をいただいております。これについてはどのように話し合いがされたのか。先般の教育委員会関係の決算の中では、私は質疑をしておりませんでした。教育部の教育振興課長のほうから何らこの問題については話し合いがされていませんという御答弁をわざわざいただいておりますので、ぜひお話をお聞かせ願いたいと思います。

○今脇市民生活部長 昨年3月ですか、ちょうどほぼ年度末に近かったと思うんですけども、この話のほうは一応御相談は差し上げましたが、まともらずに現在に至っております。

○中西委員 その話の中身はいかがだったのでしょうか。

○今脇市民生活部長 担当のほうで協議はしているようなんですけども、実態としてバスの運行管理上は1カ所にしているほうが良いというのはもちろんあります。ローテーションといいますか、そういうこともありますので、良いというのがあります。

私が特にいつも、不満と言ったらおかしいんですけども、思うところは、例えば支払い書一つをとっても、教育費について中西委員さん言われるように教育費の分の支払いを市民協働課のほうですというようなことが、実態がありますので、そのあたりはもうちょっと分担というのは進めていただけたらなというふうに思っております。引き続き事務分掌の押し合いというたらおかしいんですけども、一番効率がよくて、スクールバスについては特に子供の送迎ということもありますので、まるきり管理事務所でということではないと思いますので、もうちょっとそれぞれが寄り添えるような形にまた協議を進めていきたいと思います。

なかなか事務分掌の話はどこ部署でも押し合いになるところがございまして、そういうのではなくて、しっかり寄り添う形で話ができるようにしていきたいなというふうに思います。もう少し協議をさせていただけたらと思います。

○中西委員 車を一括管理してるから、その運用のほうでは大変便利なところがあるんじゃないかという話であります。市民協働課そのものの私は使命というんですか、役割からすると、給食を運ぶことが市民協働課の役割なんでしょうか。給食の搬送という仕事が。

○今脇市民生活部長 おっしゃるように、スクールバスについては、一元的にするというのは先ほど私が言いましたように効果はあるところはあると思いますが、おっしゃるように、給食の運搬車についてははっきり言いますとそのあたりはもっと教育委員会のほうにとっていただきたいなと思います。改めてそこももっと詰めて話をしていきたいなというふうに思います。

○中西委員 前に返るようなんですが、やっぱり認定こども園の送迎にかかわっては朝と恐らく夕方の2回に限られたところじゃないかと思うんです。そうなってくると、これも今のところでは吉永の認定こども園だけです。それともうなのかなという疑問がどうしても私も出てくる

んですが、それなんかはやはり小回りのきく園のほうで管理をしたほうが本来ならばいいんじゃないかと。運転手だけ市民協働課が管理し、そのスクールバスに乗る、乗って送迎に携わる職員だけは教育委員会が配置をします。それはちょっとやっぱりどちらかに一体化したほうがいいような感じが私はしますけども。

○今脇市民生活部長 わかりやすく言うと、ハード面をうちが持っている、ソフト面を教育委員会が持っているというような形になっているんだろうと思うんですけども、そういう意味で給食の運搬車も市民協働課のほうにあるんだろうと思いますけども、本当に何が一番いざというときに対応できるかということになると、やっぱり一緒に動かなきゃいけないところがあると思うんです。例えばスクールバスが故障した、給食運搬車が故障したというようなときあるいは運転手が病気になって急に行けなくなったときとか、そういうのがありますんで、まるきり管理事務所がうちじゃないよ、教育委員会だよという形にはならないと思うんですけど、あわせてまたもっとそれは両輪のように寄り沿っていく必要があるんだろうと思いますんで、もうちょっと細かくは詰めていきたいなというふうに思います。

○中西委員 私はやはり市民協働課が果たす役割と使命というのはあると思うんですよ。それに沿った形でやっぱり事業が展開されるように、何でもかんでも市民協働課が受けてしまうということになってはいけないというふうに思います。そのところは、かなり部内でしっかり論議をしていただきたいというふうに思います。

○尾川委員 125ページの環境衛生費、報償費の資源ごみ回収推進団体報償金というのが59万2,325円あるんですが、団体数をまず一点。それから昨年に比べたらかなり回収が報償金下がるとるんですけど、その辺を説明してください。

○久保山環境課長 平成30年度で団体数でございますが、101団体でございます。29年度が98団体。

金額のほう下がっているということですが、これは資源物の回収の量が減ってきているので変わってきているということで、平成30年度が全部、紙、金属等々の全部で1,198トン、29年度が1,365トンで、170トンほど減っているという状況でございます。

○尾川委員 余り時間をとって申しわけないんですけど、減るとるというのはどういう分析されとん。

○久保山環境課長 その年その年で大分変わってくると思うんですけども、その理由自体はわかりません。

○尾川委員 余り時間とってのもったいないんで、ただ言いたいのは、資源ごみというか、回収、歳入のほうで上がってきとる金額と、それから実際各種団体が廃品回収をして交通というか、そういう業者、受け入れ業者の単価、トン当たり単価とかというのがかなり低うなったり、特にプラごみなんかについて新聞等で書かれとるように、廃プラで海洋汚染とかいろいろ問題があるんでということで、市としてやはりプラごみ削減というふうなことからして、ダイレクトに

言わんとわかりにくいと思うんで、要するに今市は5円なんですけど、業者は2円なんですよ。昔高かったときはプラでも20円とか50円とか、トン当たり、そのくらいの金額しよったころもあったんですが、今買い取りが2円で、もうただみたいなもので、ありがた迷惑しよんかもわからんですけど、その辺で5円を昔一時期下げたということの経緯があるんですけど、もっと廃プラ回収、資源ごみの回収という面で、そんなお考え、予算をとらにゃいけんですけど、そういうお考えはないですか、部長。

○今脇市民生活部長 先ほどの量が減っていることもあるんですけども、民間もあつたりして減ってきているということはもちろんあるんでしょうけど、しっかり各資源回収とかでの回収もできているというのもあるんですけど、そういう中で上げていくということは一つ啓発にはつながるといふところはありますんで、そのあたりちょっと全体を見ながら検討はしてみたいと思いますけども、なかなかちょっと難しいのかなと思っておりますが、参考に考えさせてはいただきたいと思います。

○尾川委員 同じこと言うて申しわけないんですけど、プラごみ減せえと、25%削減とか、いろいろ政府も言ようんで、備前市としてもやっぱり前向きな取り組みということで、いろんなところで自動販売機でペットボトルを回収したり、いろんな形で回収、紙についてもいろいろあるようなんですけど、そういうことを市としても、やっぱり結局は市民のところへ還元されるわけですよ、そのお金というのは。そしたら、地域のコミュニティーの醸成という役割もあるんです。それは廃品回収やなしに、要するにそういう集中的にごみポストみたいな感じにすると、その金はやっぱり個人に帰属してしまうんで、やっぱり公民館とか子供会とかというふうな団体に還元していくということも一つの啓蒙にもなるし、ぜひ御検討願いたいと思うんですけど。

○今脇市民生活部長 私のところは市民協働課がございまして、コミュニティーの育成、そういう資金のもとにもなりますので、そういう中で、啓発もできるということで、コミュニティーも活性化できるんじゃないかということもありますんで、そういうところも含めて考えていきたいと思ひます。

一つ言えるのは、やっぱりこういう普及というか啓発ですね、そのあたりの中でそういうコミュニティーのほうにもつながる、活動資金にもつながっていったらというのがありますんで、今民間で出すところもありますから、個人の方で出してる方も多いというのが減ってきてる原因の一つでもあろうかと思ひますけど、そういうところも含めて協力のお願いと申ひますか、そういう中で単価が上げられれば一番いいんですけども、検討していきたいなと思ひます。

○掛谷委員 125ページの20節、扶助費の子供医療費が1億2,512万円ほどあります。これは、年々子供も減っているんで、できましたら小・中、高かな、入院、通院があらましようし、後刻でいいんですけど、26、27、28、29、30ですね、5年間ぐらいで子供の人数の推移も含めて知りたいんで、一覧表でいただきたいんですが。

○眞野子育て支援課長 はい、提出いたします。

○尾川委員 私の見間違いかもわからないのですが、その下の未熟児養育医療費というのが、かなり減額になっただけです。要するに、ありがたいことじゃとは思いますが、何か原因はあるんですか。要するに対象者が少なえから金額が下がってきたというふうなことじゃとは思いますが、前年度は私の転記間違いじゃなければあ71万円ほどかかるとような気がするんですけど。その辺どんなんですかね。

○眞野子育て支援課長 前年度は6人ほど対象だったんですが、ことしは1人だけでした。また、来年というか、令和元年度は何人かおる予定でございます。

○橋本委員長 それでは次に、200ページから203ページまでの歳出で、諸支出金も含めて歳出全部で質疑漏れがある方はお願いをいたします。

○藪内委員 85ページ、19節負担金補助及び交付金、交通系ICカード購入補助金500万円の予算に対して175万円、1,750枚ですか。今後またするようなことはないでしょうか。

○杉田市民協働課長 初めてこちらのICカードを購入された方に一度限りで交付のほうをいたしておりますので、今後継続する考えはございません。

○中西委員 85ページ、総務管理費、地域振興費の委託料でバス運転委託料というのがあります。あわせて、その下に地域公共交通調査委託料というのがあるんですが、上のバス運転委託料、これは今回の平成30年度の決算の資料でも21ページに資料が出ています。

本日、市民協働課より新しい資料が1つ出ていますが、このA4の新しい資料からして、利用人数が少ないからその線をなくしてしまう、こういうわけでもないです。この際の全体から見て、どういったような市営バスの運転がやっぱり必要、運行が必要なのかということについては、担当課のほうはどんなふうにお考えか、お聞かせ願いたいと思います。

○杉田市民協働課長 路線バスにつきましては、いわゆる利便性の向上と、それから効率性の両立ということが求められております。持続可能な公共交通になるように見直しのほうが必要というのは認識しておりますので、今後利用の少ない路線については見直し等を行っていくということを考えております。

○中西委員 利用の少ないところというのは、吉永、八塔寺のところが少ないわけですが、そこについては利用者は少ないけどもやっぱりニーズは高いというのが私は逆にあると思うんです。それだけ使われる人にとっては大変ありがたいという話は伺ってますので、そこは見直しをかけるものかどうかというのは、私はいかがなものかというふうに思うんですが、もう少しそのところをどう利用してもらおうかというところで考えたほうがいいのではないかと思います。いかがなものでしょうか。

○杉田市民協働課長 路線につきましては、一般の方が使われる部分と、それから観光目的を想定した路線を組んでいる部分もございます。そういった意味もありますし、先ほども申し上げられました利用者の方の高い需要というのもあると思います。そこら辺を総合的に勘案して検討の

ほうを持ってまいりたいと考えております。

○中西委員 この表から見て私が思ったのは、横のライン、つまり日生と備前、この市役所を結ぶラインと、それから南北のラインはやっぱり利用者が多いというのが一つの特徴だと思うんですよ。あと例えば、頭島線の問題が残るかもわかりませんが、これは船の代替えというものもあるかもわかりませんので、横軸と縦軸のところが多いたいというのがあるんですが、1つ気になりましたのは、東鶴というのはたしか吉永から出て東鶴、日生を回って東鶴へ行く路線ですよ。吉永というのが吉永からこれは片上に来るバスですけど、これは閑谷学校を通ってるやつですけど、平日は10便あるけど、土曜日は2便、日曜日にはないです。つまり、世界遺産を備前市は何か目指しているというふうにお伺いはしているんですが、日曜日にこの片上、伊部方面から閑谷学校に行くバスがない。これはどのようにお考えになっておられるでしょう。

○杉田市民協働課長 閑谷学校との乗り継ぎということになると思うんですけども、基本的には吉永駅から閑谷学校への便というのが南北のぞみ線のほうが担っておりまして、そちらのほうで皆さん利用されているというのが現状かと思えます。

○中西委員 この備前焼の伊部のところから片上を経由して閑谷学校に行くのが日曜日がないと。せめて日本遺産になったと、世界遺産は難しいかもわからないけども、世界遺産を目指してやってるんだということであれば、これは何か伊部と閑谷学校を結ぶラインがあってもいいんじゃないかなと。どうなんでしょうか。そういう御要望はないんでしょうか。

○杉田市民協働課長 土日の関係になりますが、現在いわゆるシャトルバスを運行いたしております、伊部の備前焼ミュージアムから休日、閑谷学校に1日3往復運行いたしておりますので、そちらのほうも使っていただけたらということで、現在PRしているところでございます。

○中西委員 そのシャトルバスの利用者はどうでしょうか。

○杉田市民協働課長 こちらは無料で運行いたしておりますが、1日3往復で、昨年8月から本年7月までの1年間で188人の利用がございました。

○中西委員 たくさん運んでおられることがよくわかりました。

○土器委員 109ページ、19節、寺山地区高齢者等通院交通費助成金、これは何人の方に出されたんでしょうか。

○坂本日生総合支所長 1名のみです。

○橋本委員長 ほかにございますか。

○西上委員 125ページの7節賃金、火葬執行嘱託賃金650何万円ですが、火葬執行者は何人おられるんですか。

○久保山環境課長 こちらは、火葬場の嘱託員1名の賃金でございます。

○西上委員 1名で事は足りとんですか。

○久保山環境課長 基本的にはお一人で作業してもらっておりますが、当事者がどうしてもというときには業者委託ということでフォロー、補助していただくような形をとっております。

○尾川委員 127ページ、負担金補助及び交付金で生ごみ処理容器購入費補助金なんですけど、昨年29年決算に比べたら増額になっとるような気がすんですけど、どういうふうなというんか、普通とか、機械とか段ボールとかというふうな生ごみ処理機についての分類、種類ごとの数をちょっと教えてください。

○久保山環境課長 コンポストが42基、熱式コンポスト、機械のほうですけど14基、段ボールコンポストが9基となっております。

○尾川委員 ふえるということは非常にクリーンセンターの使用が少なくなるということなんですけど、今後の目標はどういうふうにごえとられるんですかね。今段ボールもかなりふえてきとるような気がするんですけど、かなりというんか、どう解釈するかですけど、今14と9という報告があったんですけど、どういう捉え方をされとんんですかね。

○久保山環境課長 こちらは引き続き新規で購入をしてもらって、少しでもごみの減量化に進めていきたいと考えております。

○石原委員 守井委員がお尋ねになったんかと思うんですけど、117ページの児童福祉施設費の病児保育事業なんですけど、こちらの利用の状況に対するのはどんな感じなんでしょうか。

○眞野子育て支援課長 去年は伊部保育園で行っていましたが、これが年間12名でございます。それから、広域利用でお願いしております瀬戸内市の牛窓なんですけど、この施設に3名が利用されました。

○橋本委員長 この際審査途中でございますが休憩をいたします。

午後0時07分 休憩

午後1時00分 再開

○橋本委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○西上委員 133ページ、13節委託料でダイオキシン類特定業務委託料なんですけども、29年度が157万6,800円で30年度が257万400円ということで、大幅に上がってるんですけど、これの詳細を教えてください。

○久保山環境課長 これはクリーンセンターから発生するダイオキシンの分析でございまして、指名競争で額のほうを決めさせてもらっております。内容的には変わっておりませんので、入札した金額によってということになります。排ガス焼却灰、キレート処理の集じん杯を調査しております。

○橋本委員長 ほかに。

もう歳出全般で結構ですよ。

○掛谷委員 子供医療費の実績の推移いただきまして、ありがとうございます。これは既に厚生委員会で2月に配られているものをもう一回もらいましたけども、ここで就学前、小学校、中学校、50人から80人ぐらいマイナス57、マイナス51、マイナス80が、平成27年から平成30年、子供が減っているなど。

医療費については逆にふえてるのかな、ふえたり減ったりか、というところなんですけども、これからしますと、今後の推移というのがどうなのかなというところと医療費の関係、どういふうに今後見込んでいこうとしているのか、そのあたりをちょっと教えていただければありがたいかなと思いますけど、いかがでしょうか。

○山本保健福祉部長兼福祉事務所長 今後の推移ということでございますけれども、4歳未満までの子供につきましては、過去3年をちょっと検証してみたんですけれども、現状維持ないしは微増というふうな傾向でございます。

ただ、小学校、中学校となると、やはり減少傾向にまだあるということでございますので、トータルで考えますと、子供の数は減っていつておるということでございます。

したがいまして、医療費等の伸びがなければ、トータル的には子供医療費も減っていくんですけども、若干の医療費の伸びも見込めますので、トータル的に同等か微増になっていくだろうというふうには考えております。

○掛谷委員 入院と通院というのがあるんですが、そこはちょっとこれではわからないかなと思うんですが、そのあたりは若干どんなんですか、傾向として変わらないんですか、入院がふえるということもそうないと思うんですけども、通院、入院、余り現状維持で変わらないんでしょうか。

○山本保健福祉部長兼福祉事務所長 基本的には、入院、通院の割合は年によってそう大きくは変わらないと思います。ただ、通院につきましては、インフルエンザ等がはやった年なんかについては当然冬にかかる医療費というのが急激にふえたりするということはございますけれども、入院についてはおおむね横ばいで推移していくと思っております。

○尾川委員 129ページ、公害対策費で、急速充電器保守管理委託料258万5,520円というのがありますが、いろいろ過去のデータをちょっと全部は持ってないんですけど、3年ほどずっと継続しとると。いろんな費用でもそうなんですけど、同じ数字が続くのがええんか、それともふえたり減ったりするんがええんか、担当者の努力の跡が見られるのが、高くなるのをキープしとるといふうな、いろんな捉え方があると思うんですけど、この場合の258万5,520円の委託料というのはどういう動きというんですか。それと、利用者がふえてきとんかどうか、ちょっとその点を教えてほしいんですけど。

○久保山環境課長 こちらの急速充電はミントウェーブというところに委託をしております。備前市内の6カ所をお願いしております。こちらの保守管理に関する業者は、急速充電メーカーによりまして指定をされております。ですので、選択の余地がないというか、そういう状況でございます。

それから、急速充電の状況でございますが、平成30年度で回数でいきますと3,584回です。

○橋本委員長 料金のほうはわからんのですか。

○久保山環境課長 料金はわかりません。

○尾川委員 3, 584回というような回数について、これは設置してよかったんか、それは先行的な意味合いもあると思うんで、だけど市としてはやっぱり今後もこれについてはふやしたり、その辺はどういうふうなお考えなんですか。

○久保山環境課長 以前の回数はちょっと覚えてないんですけど、年々ふえてきております。よって、その需要があるというふうに考えております。

ただ、場所によっては余り利用が少ないというところもありますので、今後どうするかというのは検討していきたいとは考えております。

○尾川委員 そうしたら、ふやすという考え方は余りないということで、下手しとったら移設して少ないところからニーズが多いところへ持っていく可能性があるという、そんな判断でええんですかね。

○久保山環境課長 基本的に、今のところはふやすというのは考えておりません。なので、利用が少ないところを継続していくのか、ただ電気自動車自体もかなり普及してきておりますから、今以上にはふえてくるとは考えております。

○掛谷委員 133ページ、清掃費の中の13節委託料で、ごみ処理の関係のところはどんどん出てきております。これの参考資料の19ページにごみの関係経費の実績ということで上がっております。収集事業費からごみ処理、施設事業費、処分場の事業費、ストックヤードの管理事業、計が人件費と事業費分けられて、公債費も含めていろいろありますけども、全部で処理費用が4億9,700万円ということであります。

お尋ねは、毎年人口減少があります。大体500人と言われてますし、世帯数も減ってきていると思うんですよ。それで、備前市としてはごみの減量化、これについて平成30年度どういった目標であって、どこまで減量できたのかな。さらに言えば、本年度どういう目標でどういう形で達成していくのかなというところがちょっと興味があるわけで、そのところを教えてくださいなと思っております。

○久保山環境課長 大変難しい問題なんですけれど、基本的に資源物とか廃プラを分けていってかというので全体的なごみの量、焼却する量であるとか埋め立てする量はそのときには減っているんですけど、それ以降に人口が減っているにもかかわらずごみの量はほぼ変わってきていません。これを何でならと言われてたら、ちょっと私にもわからないところではあるんですけど、ほかの自治体に聞いても、やっぱりそういった現象はあるらしいんです。

結局、転出されても家はあるとかというので、余りごみは変わらないのかなというようなことだと考えております。目標については、少しでも少なくするのが目標ではございますけれども、ちっさいところからコンポストであるとかというのを進めていけたらなと考えております。

○掛谷委員 たしか大分前に1人当たりのごみの出す目標が、たしか1人1日500グラムとか、そういう目標を掲げて取り組んでいくべきだということで、結構そういう目標の1日1人当

たりの出すごみの目標値なんかも出したことがあったと思うんですよ。そういうのがいつの間にか全然言われなくなってきたんですよ。そういう意味で、今後はこの大きな金をかけて処理するわけなんで、しっかりと考えてもらって取り組んでいただきたいと思ったんですけど、そのあたり部長はどういうふうに今後考えておられるかな。

○今脇市民生活部長 1人当たり幾らというのは恐らく数字上はこしらえてみても、じゃあ1人どれだけ出しとるかというのは恐らくわからないので、現実的にはじゃあこっだけに減らそうというのはちょっとなじまないのかなというところもあります。

それ以上に、普及啓発ということで、今やっぱり一番困っているのはプラスチックごみとかそういうところだと思いますんで、レジ袋もやめていく方向にはだんだん進んできておりますし、生活も昔のように入れ物を持って買い物に行くスタイルにやっぱり戻していかないといけないということと、ペットボトルにかわるものは紙にしてリサイクルしていくとか、瓶にかえられるものは瓶にかえていけるとか、そういうふうにしていかないといけないというふうに思ってます。

今、お菓子のチョコレートの包装紙でもキットカットでしたかね、250円ぐらいのチョコレートの袋だと思いますけど、これを今紙にしていますので、こういう企業のほうの取り組みもありますし、市のほう、行政のほうもそういうところにどんどんできることをしていくようにしていけないといけないと思うんで、ごみを減らすというのは、やっぱり生活を落とすことは余り考えられませんので、リサイクル、リユース、リデュースのほうに持っていくというのが一番かなと思っております。

デジタルはなかなか難しいかなと思いますんで、啓発も含めてこれからも一層進めていきたいなというふうに思っております。

○掛谷委員 意見として、やはり目標設定は難しくても、いろいろ分析しながら、今のストローなんかでももうプラスチックから紙ですね、紙のほうへシフトしていきようるわけで、企業の動向によってその辺も違うんですけども、しっかりとその辺を分析しながら備前市としてやはり減量化、減量化はどうあるべきか、どの辺に目標を持ってやっていくのが課題だと思うんで、しっかり取り組んでもらいたいなと思うんです。

もう一点、下の15節の工事請負費、これはごみ焼却炉が新しくできて終わりだった8億2,296万円ですか、この新しい焼却炉になったときに大体毎年片方ずつ、半分を修理して半分を稼働と、それで毎年解体までいかんけど、修理をしょうりましたね。新しくなっても、やっぱり同じやり方をやっていくんですか。そのスパンが長くなってくるとか、新設した場合になったら、そこは余り頻度がなくていいんじゃないかなと思ったりするんですけど、どういう考え方ですか。

○久保山環境課長 基本的には、昔の古い炉よりは新しくなってますんで、その分は長くはなりますけど、基本的にはその炉で毎年焼いている状況でございますので、部分的にも直していかなくちゃいけないというのは必ず出てきますから、その片炉運転というのにも必要になってきます

し、計画的に年次の修繕の計画を立てて実施していくということが必要だと考えています。

○掛谷委員 ですから、新設した場合は、当面はそんなに高額のお金で修理することはないと思うんです。それがやっぱし年数が長くなるほど、修理するところは多くなってくるので多額を要すると思うんですね。そういう意味合いをお聞きしようんで、当然そうでしょう。

○久保山環境課長 そのとおりでございます。

○藪内委員 109ページ、19節負担金補助及び交付金の通所付き添いサポート事業補助金、これは三石のいきいきサポートですね。この活動状況は今どんなですか。

○今脇介護福祉課長 三石通所付き添いサポート事業ですが、昨年の12月から正式に稼働しておりまして、昨年度実績で申しますと、サポーターの数が31人と現在もふえている状況です。

それから、実際に自力でサロンのほうに参加できない高齢者、サポートする対象の高齢者というのが14人というところで活動しております。

この補助金なんですが、1回2,000円というところで協議会というところがございますので、そこに1回2,000円というところで補助をしております。

○藪内委員 今現在、ニーズとか評判は全体的にどうでしょうか。

○今脇介護福祉課長 実際に自分では行けないけれども、車で送ってもらって、付き添いをしてもらってサロンに行けるというところで御好評はいただいております。

○藪内委員 関連しまして、今このいきいきサポートとか、吉永のささめあい号ですか、あと鶴海のほうのグリーンスローモビリティ、いろいろ対策とられてますが、今後、これらをミックスするとか、どのような方向でいかれようと考えておられますか。

○今脇介護福祉課長 今、委員さんおっしゃいましたように、その地区でいろいろな移動の支援の体系があります。その地区に合った移動の支援といいますか、そういうことを広げていきたいと思っておりますので、この付き添いサポートにつきましては、サロンへの移動というところで、ちょっとまた体制が違うのかなというところもあるんですが、徐々にできるところで、これは皆さんの住民の方の協力なしではできないというところがございますので、広げていきたいと考えております。

○森本委員 133ページの委託料の次期最終処分場整備構想計画策定業務委託料なんですけど、今年度どれぐらい事業が進んでいるのか、お知らせください。

○久保山環境課長 構想計画はでき上がっております。次のステップとして対象の地区と協議をしてという形になりますが、まだそこまでいっておりませんので、作成ができているという段階でございます。

○森本委員 127ページ、環境衛生費の委託料なんですけど、そこに廃棄物認定放置自動車処分委託料というのがあって、29年度はなかったと思うんですけど、当初予算で4万8,000円で上がっていたと思うんです。これは金額的にも倍ぐらいになっているんですけど、それも含めて説明をお願いします。

○久保山環境課長 こちらは放置自動車の撤去委託料でございまして、処理してもらうのに委託料を支払っております。

○森本委員 委託先と、市内にはそういう認定された放置自動車がまだ残ってるんでしょうか。

○久保山環境課長 こちらは、金平鉄鋼さんをお願いをして、深谷川の山奥で放置された自動車を撤去しております。

○橋本委員長 ほかに市内にまだたくさんあるのかという質問についてはどうですか。

○久保山環境課長 ほかに特に今把握しているのはございません。

○青山委員 123ページの13節委託料、救急医療在宅当番医委託料があるんですが、詳細を教えてください。

○森保健課長 これにつきましては、休日とか祝祭日の当番医について、和気医師会へ委託している事業で、和気町と一緒に総額で委託しております。

和気町と備前市の人口割合で総額を案分いたしまして、平成30年につきましては237万7,000円を支払っております。

○青山委員 その下の19節負担金補助及び交付金のところの第2次救急医療体制整備負担金というのがあるんですけど、こちらについても教えてください。

○森保健課長 これにつきましては、第2次救急医療体制の維持のため、5市2町で救急病院の運営費等について負担しているものです。事務局が岡山市にありまして、岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町でそれぞれ均等割、それから人口割で負担いたしております。

○青山委員 備前市には3病院あるんですけど、備前市の3病院の体制というのはどういうふうになっとんでしょう。

○森保健課長 そのところにつきましては、ちょっと病院事業になりますので、私どもでは把握しておりません。

○橋本委員長 ほかにございませんか。

全般にわたって結構ですよ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようであれば、委員会を締めたいと思います。

それでは、以上で議案第97号平成30年度備前市一般会計歳入歳出決算の認定についてのうち市民生活部、保健福祉部ほか関係の全ての審査を終了します。

今回は11月21日木曜日、午前9時半から、市長公室、総務部、会計課、監査委員事務局ほか関係の審査並びに採決を行いますので、よろしくお願ひします。

それでは、これをもちまして予算決算審査委員会を閉会します。

御苦労さまでした。

午後1時28分 閉会